資料３

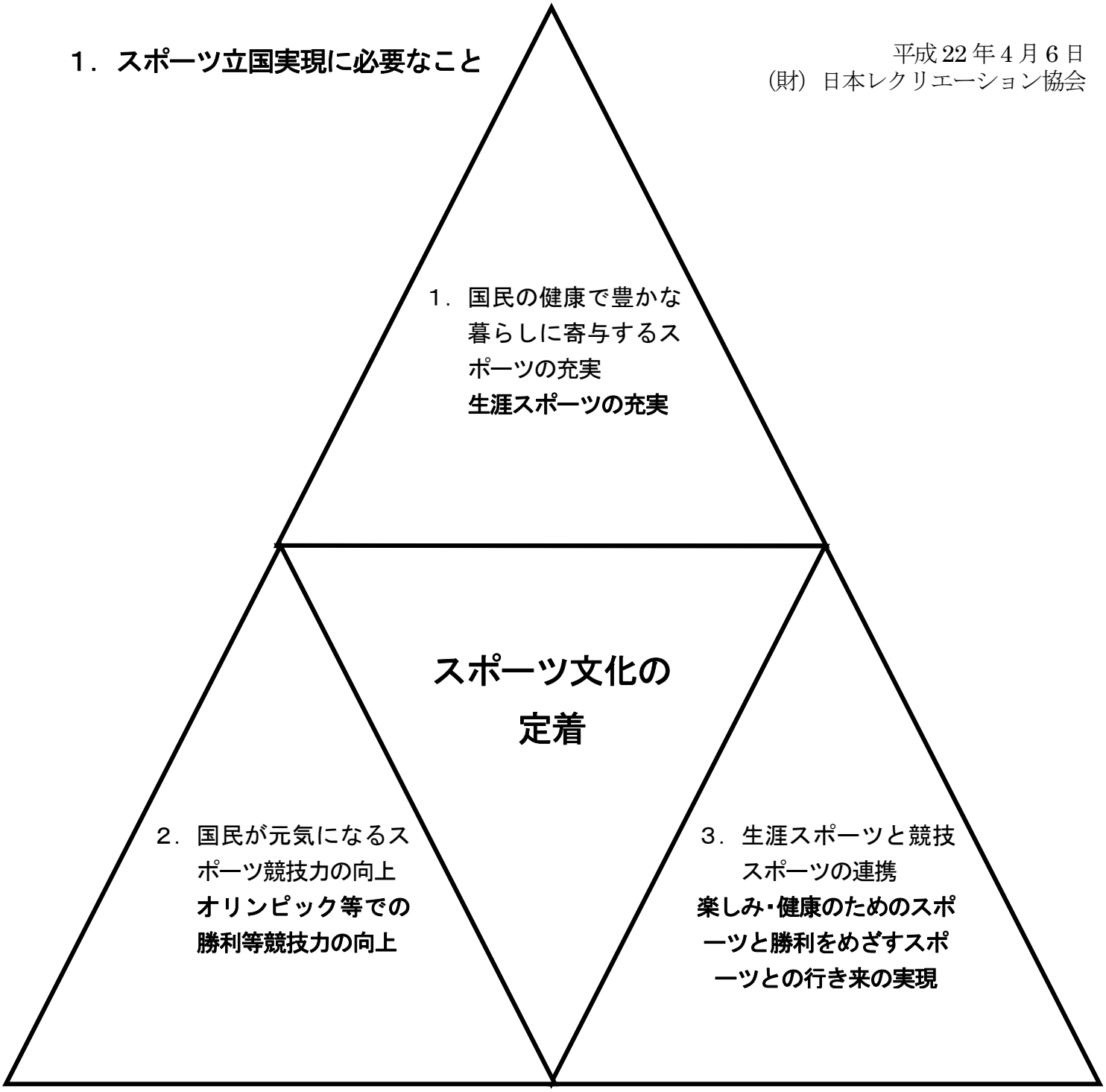
（財）日本レクリエーション協会

資　　料

「スポーツ立国戦略」に望むこと

１．スポーツ立国実現に必要なこと

平成 22 年 4 月 6 日
(財) 日本レクリエーション協会



スポーツ立国を実現するために重要な視点は、以下の３点であると考える。

１）国民の健康で豊かな暮らしに寄与するスポーツの充実
　　生涯スポーツの充実

２）国民が元気になるスポーツ競技力の向上
　　オリンピック等での勝利

３）生涯スポーツと競技スポーツの連携
　　楽しみ・健康のためのスポーツと勝利をめざすスポーツとの行き来の実現

上記を実現することが、スポーツ文化を定着させることでもある。

２．スポーツにおけるレクリエーションの重要性

「みるスポーツ」が楽しみとして人気を得ている。「するスポーツ」においても、多くの国民はレクリエーションとしてスポーツに親しんでいる。

【国民がスポーツに求めるもの】内閣府：平成 18 年度体力・スポーツに関する世論調査

○運動やスポーツを行った理由

1 位　「健康・体力つくりのため」55.0％

2 位　「楽しみ, 気晴らしとして」50.1％

3 位　「運動不足を感じるから」（41.2％）

4 位　「友人・仲間との交流として」（35.4％）（複数回答，上位４項目）

【国民が親しむスポーツ種目】同上

○１年間に行った運動やスポーツの種目

1 位　「ウォーキング（歩け歩け運動, 散歩などを含む）」（44.2％）

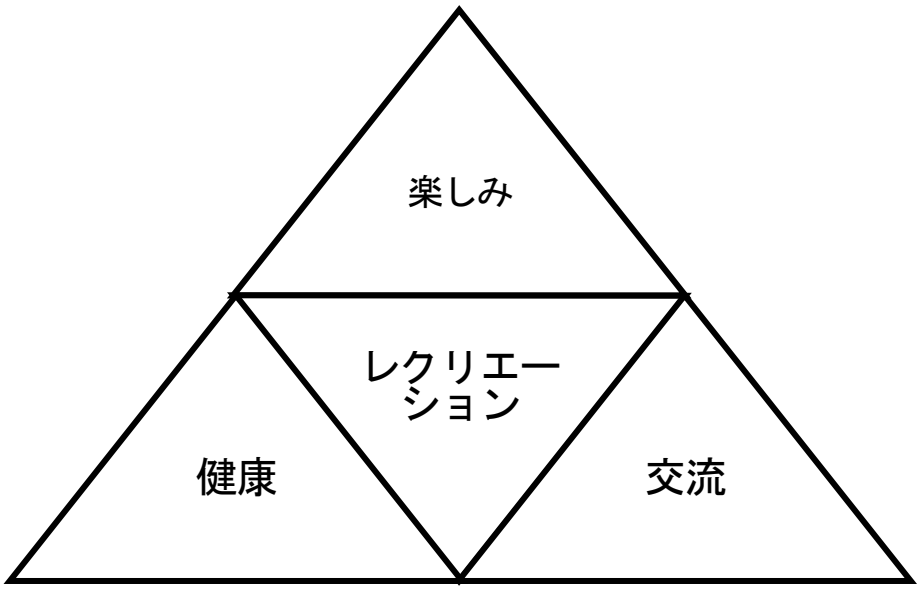
2 位　「体操（ラジオ体操，職場体操，美容体操，エアロビクス，縄跳びを含む）」（22.6％）

3 位　「軽い球技（キャッチボール，円陣パス，ピンポン，ドッジボール，バドミントン，テニスなど）」（15.0％）

4 位　「ボウリング」（14.6％）（複数回答）

３．レクリエーションとは

楽しみ、健康、交流を求めて、主として自由時間に行う諸活動であり、社会的活力を生むもの



レクリエーションの主たるジャンル

スポーツとして行うレクリエーション（スポーツ・レクリエーション）

自然の中で行うレクリエーション（ネイチャー・レクリエーション）

福祉分野でのレクリエーション（福祉レクリエーション）

文化・学習活動でのレクリエーション（文化レクリエーション）

参考：行政文書に出てくるその他のレクリエーション

＊ 観光レクリエーション

＊ 公園レクリエーション

＊ 森林レクリエーション

＊ 港湾レクリエーション

４．レクリエーションの公益性

幼児・児童・生徒の健全育成、家族の絆、中高年の健康づくり、高齢期の介護・介護予防や地域再生、環境保全、企業の従業員の福利厚生、社会貢献の充実等、国民一人ひとりの幸せや社会のよりよい姿の実現といった目的に向けて、レクリエーションは積極的に活用されている。個人の生活を豊かにするだけでなく、社会課題の解決にもつながる公益性を有している。

５．（財）日本レクリエーション協会のスポーツ・レクリエーション事業

１）ニュースポーツの普及・進行

参考資料：パンフレット『健やかさを生み出すスポーツ・レクリエーション』
：第 63 回全国レクリエーション大会 IN ながさき　報告書

① 41 加盟種目団体とともに多様なスポーツ・レクリエーションを展開

世代を問わず誰もが楽しめる種目や勝ち負けのない活動自体を楽しむ種目、野外活動に関わる種目など、41 の種目団体が加盟。多様なスポーツ・レクリエーション活動を展開している。

②全国レクリエーション大会、全国スポ・レク祭の開催

生涯スポーツの全国規模の大会として、全国レクリエーション大会を開催し、多数の国民がスポーツ・レクリエーションに親しんでいる。また、全国スポ・レク祭も主催団体の一つとして開催している。

全国レクリエーション大会　開催状況（第 55 回大会よりのべ人数）

回数	期日	開催地	総参加者数（延べ人数）
第55回	平成 13 年 10. 26～28	香　川	40,220
第56回	平成 14 年 11. 8～10	埼　玉	53,273
第57回	平成 15 年9. 19～21	広　島	30,107
第58回	平成 16 年9. 18～20	鳥　取	28,457
第59回	平成 17 年9. 17～19	東　京	38,673
第60回	平成 18 年9. 16～18	青　森	20,080
第61回	平成 19 年 11. 2～4	神奈川	18,319
第62回	平成 20 年9. 13～15	岩　手	10,166
第63回	平成 21 年9. 19～21	長崎	10,616

全国スポレク祭の開催状況（第 15 回大会より）

名称	期日	開催地	合計
スポレク広島 2002（第 15 回）	平成 14 年 10 月 5 日～8 日	広島県	15,942 名
スポレク香川 2003（第 16 回）	平成 15 年 11 月 1 日（土）～4 日（火）	香川県	16,048 名
スポレク福井 2004（第 17 回）	平成 16 年 10 月 2 日（土）～5 日（火）	福井県	11,290 名
スポレク岩手 2005（第 18 回）	平成 17 年 10 月 1 日（土）～4 日（火）	岩手県	12,790 名
スポレク鳥取 2006（第 19 回）	平成 18 年 10 月 21 日（土）～24 日（火）	鳥取県	10,676 名
スポレク青森 2007（第 20 回）	平成 19 年 9 月 22 日（土）～25 日（火）	青森県	9,872 名
スポレク滋賀 2008（第 21 回）	平成 20 年 10 月 18 日（土）～21 日（火）	滋賀県	23,949 名
スポレク宮崎 2010（第 22 回）	平成 21 年 10 月 17 日（土）～20 日（火）	宮崎県	19,283 名

③高齢者、障碍者へのスポーツ機会提供

全国 11 万人のレクリエーション公認指導者の多数が高齢者、障碍者にスポーツ・レクリエーションを提供。

2）子ども体力向上を促進する事業

参考資料：『チャレンジ・ザ・ゲームチラシ』『チャレンジ・ザ・ゲーム　ルールブック』
：『おやこでタッチ！』『おやこ元気アップ！事業のご案内』

①全国いつでもどこでもチャレンジ・ザ・ゲームの展開

グループでいつでも、どこでも記録に挑戦し、ランキングを競うプログラム。あまり運動をしない子どもたちも楽しみながら挑戦できる。

特に、ロープジャンプ EX（エクストラ）はフジテレビとともに全国小学生大会を実施。大会をめざす練習を続ける中で大きな成果を生み出している。

②子どもの体力向上推進事業の実施

子どもの体力向上を進めるため、「アイーダアイダ」の制作、「元気アップおやこセミナー」「おやこ元気アップ！事業」などを文部科学省とともに実施。「おやこ元気アップ！事業」では、子どもの体力の現状や生活の乱れがもたらす深刻な問題について保護者に伝え、、あわせておやこで運動の楽しさを体験。運動遊び、外遊び、スポーツを生活に取り入れることを促す。全国 106 カ所で実施。

③あそびの城事業

子どもたちが放課後等に運動遊び、外遊びなど安心して楽しめる場として「あそびの城」づくりを全国各地で実施。平成 21 年度は 83 カ所の実施。

3）総合型地域スポーツクラブへの支援

平成 10 年から文部科学省の調査事業により埼玉県志木市で総合型クラブづくりに取り組み、クラブしっきーずづくりを支援。平成 12 年度～16 年度までに 10 地区、平成 20 年から 6 地区、toto の助成を受けて総合型クラブの創設支援及び自立支援を行っている。

いずれのクラブも自主自立の運営を行っている。

6．生涯スポーツ充実のために不可欠な施策

1）スポーツに親しもう！政府全国キャンペーンの実施

健康、仲間づくり、楽しみ、リフレッシュ、生きがいを得られる活動として、すべての国民がスポーツに親しもうという一大キャンペーンを実施する。テレビ、新聞、雑誌、web ポータルサイトなど、メディアとの協同事業として行う。

国、都道府県、市区町村の各レベルでの具体的な事業・活動とセットで展開

2）身近な生活圏で日常的にスポーツ・レクリエーションを楽しめる場の充実

総合型スポーツクラブの設立・充実を中心に、上記キャンペーンによって生まれるスポーツ・レクリエーションニーズの受け皿として活用し、活性化につなげる。

特に、これまでスポーツに親しんでいない人々（運動が苦手な人も含む）が楽しめるような種目・プログラムの充実を図る。

３）運動が苦手な人も楽しめるスポーツ種目・プログラムの指導者育成・研修
上記を実現するために不可欠な指導者の育成・研修を実施する。

４）野外活動も含む多様な種目の提供
キャンプ、サイクリングなど野外活動も生涯スポーツの一環として普及・振興。そのため、総合型クラブ指導者を対象とした指導者研修会を実施する。

５）子どもの頃からのスポーツ・レクリエーション体験
子どもの体力向上、生涯にわたっての運動習慣や健康的なライフスタイルづくりのために子どもの時代に多数のスポーツ・レクリエーションの楽しみ体験を提供する。保護者の意識改革が重要なため、保護者も含めた啓発事業も実施する。政府全国キャンペーン事業の一環。

６）介護予防につながる高齢者のスポーツ振興
総合型クラブなど、身近な生活圏で高齢者を対象とした多様なスポーツプログラムを提供する。そのため、総合型クラブ指導者等を対象とした指導者研修会を実施する。

７）スポレク祭の拡充
多様なスポーツ種目による大会を市区町村、都道府県、国の各レベルで拡充。大会の参加種目数を 30 種目程度に増やす。

７．生涯スポーツと競技スポーツの連携に不可欠な施策

１）スポーツ関係者の意識改革
競技スポーツ、生涯スポーツを上下関係と捉える見方が一部に残るが、ともにスポーツ文化定着には重要な柱であるとの共通認識を広げる。政府全国キャンペーン事業の一環としてシンポジウムなどを実施。

２）地域でのトップアスリートやプロ指導者の指導及び育成
総合型クラブなどでトップアスリートやプロ指導者が指導する機会を増大させる。また、トップアスリートを育成する総合型クラブを生み出す。
さらに、現役引退後も総合型クラブでスポーツを楽しむなどの動きを定着させる施策を実施。

３）トップアスリートとの交流イベントの実施
トップアスリートやメダリストなどと一般の人々がスポーツや運動遊びを楽しみ、スポーツの魅力をより多くの人々が実感する交流イベントを 47 都道府県で実施。

８．その他、国主催の新しい事業実施提案

１）クラブマネジャー企画力アップ研修会
総合型地域スポーツクラブには、魅力的なさまざまな事業を企画・実施する企画力を持つ人材が求められる。そのため、既設及び創設準備中のクラブマネージャーを対象とした企画力を高めるための研修の実施を提案したい。
この研修は、一般論としてのマーケティングや企画についての知識・ノウハウもさること

ながら、各クラブマネージャーが各クラブの特性を活かした魅力的な事業を実際に企画し、相互評価によりブラッシュアップしていくような実践的な学習機会とすることが重要である。

こうした研修の成果により、各クラブが多様な事業を展開し、より多くの会員が集まることにより、さらに事業は多彩となり、クラブ活性化につながる好循環が生まれてくる。

２）楽しさを伝えられるスポーツ・レクリエーション指導者へのブラッシュアップ研修会

スポーツが好きな人、得意な人に対しては、スポーツの技術指導を中心とした指導者で対応できる。しかし、スポーツ実施率を向上させるということは、「これまでスポーツに親しんでいない人たちに、新たにスポーツ・レクリエーションに親しんでもらう」ということ。「うまくなくてもみんなと動くことが楽しい」と感じられるような指導が重要である。 そこで、体育指導委員やスポーツ・レクリエーション指導者を対象にブラッシュアップを図る研修を実施する。

３）子ども対象指導者の意識啓発研修会

生涯にわたりスポーツを楽しめるようなスポーツ観を育むためには、以下の指導が重要である。そこで、子どもを対象にスポーツ指導をしている指導者への啓発研修会を実施する。

① 勝敗のみにこだわるのではなく、プレー・活動・パフォーマンスを楽しむこと。
② 子どもの発育・発達を踏まえて幼児から少年前期はできるだけ多様な運動を体験させ、スポーツ傷害を生み出さない。